

令和5年度 第1回 学校運営協議会議事録

1 日 時 令和5年5月23日(火) 午前10時から正午まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校
(松崎高校会議室)

3 参加者

○学校運営協議会委員

石田 博之 様 松崎町文化協会会長
菜野 倫克 様 松崎町桜田地区区長
鈴木 久美子 様 障害者就業・生活支援センター「わ」職員
鈴木 茂孝 様 とんび農園代表
西島 卓 様 伊豆松崎分校 PTA 会長 (欠席)

○教職員

校 長 松本 仁美 (Zoom)
教 頭 所 宗子 部主事 藤井 あや子

4 内 容

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 学校運営協議会委員任命
- (4) 令和5年度学校経営計画等説明
 - ・学校運営協議会委員から感想や質疑・承認
 - ・不祥事根絶に向けた取組計画
- (5) 意見交換・協議
 - ・地域とのつながりについて パワーポイント資料 (部主事より)
 - ・『地域で生きていくために』意見交換・協議
- (6) 「作業学習」授業参観
- (7) 閉会

5 議事録

学校経営計画について

教頭 ・学校教育目標を達成するため4本の柱を立て教育活動を行う。
様々な目標を立てているが今年度特に力を入れることはゴシッ

ク体で示している。

- ・高校との交流・共同学習や地域での作業学習など、同年代や地域の方々との触れ合いができています。地域で生きる・貢献できる人を育てていく。

委員 ・文科省から高校との連携について話が出ているが、ここは10年前からやっている。最初は、バスの中でも偏見や差別的な言動も見られたが今はない。非常にいい形になっている。

委員 ・昨年雲見地区の水害被害時に、多くの子供たちが様々な支援活動を行った。福祉大会で表彰の話題が挙がったときに、松崎高校から伊豆松崎分校の生徒会も一緒に募金活動を行ったので表彰して欲しいという話が出た。常に気にかけている。

委員 ・合同で行っている体育大会を見学した際に、松崎高校生が分校生の世話をしているのではなく、見守りながら一緒に行い上手に関わっていた。普段から関わっているからできることで、大事なことだと思った。

意見交換・協議等

学校より 「地域で生きていくために・・・」

- ・地域での取組について（パワーポイントで説明）

意見等

○松崎の魅力、地域性

- ・以前松崎地区の特産「桜葉産業」は分校卒業生の進路先とならないかという話があったが、収穫期以外は人手がいないことから就職は難しいかった。継続できる仕事が現在地域にあるかという点と難しい。
- ・地域福祉として「松崎サロン」という居場所作りをしている。松崎町は高齢化が進み、何かの提供を待つのではなく自分たちで考え活動している。
- ・一次産業に従事していた者の知恵と技を活かす場を、一緒に考えられないか。今まで培ってきた知恵と技を活かす生産活動や販売活動など、生み出せるものがあるとよい。
- ・卒業後は健常者でも町外に出ていく現状である。地域の特産を活かした取組、例えば海水を利用した「塩」作りを時間をかけてゆったりとやっていけないか。観光の呼び物にもできないか。
- ・障害のあるなしに関わらず一緒に働き、理解してもらおう。そこを売りにして活動ができないか。松崎の良さでもあるのんびりとした癒しが提供できる。仕組みが考えられないか。

- ・三重県には地元の企業と一緒にやっているとあるところもある。
- ・どこかの企業とコラボができないか。

○情報の発信

- ・分校の存在を知ってもらい、個々の生徒を知ってもらうことが大切。商店街に買い物に行く、分校だよりの配布を生徒が行うなど地域に出ていく。
- ・分校だよりを桜田地区の回覧板に入れて回している。地区だけでなく町内に回すこともできる。
- ・桜田公園の草取りをやってもらっている。その様子など桜田公園に掲示することができる。若い子供連れの家族も来るので、分校を知ってもらう機会になる。
- ・松崎町で行っている「先生 大集合」の記事を新聞で読んだ。松崎町の先生たちが集まり、小さい頃からの情報を共有し支援できるのはよい。規模的にも松崎町はちょうどよい。
- ・卒業生の就労先を回る中で、定着、継続が難しいと感じる。一緒に働く人の障害理解が難しいこともある。ある企業では、聴覚障害について勉強会をしている。理解を深める活動が進むとよい。
- ・目の前にある、できることからやっていくことが大事である。
- ・長い目で見ると必要があるだろう。
- ・高校と特別支援学校との交流はどこでも当たり前になっている。松崎町の魅力を活かし、卒業後の子供たちが地域に貢献できる仕組み作りが必要である。

感想・連絡

- ・桜田地区の田植えに PTA 行事として参加している。今年は 6 月 4 日。
- ・放課後支援等デイサービスが下田に開所。4 人利用の見込みであったが始まったら 20 人を超えた。需要はある。松崎町で開所する予定。そこを利用する人、そこで働く人など地域の働く場ともなる。
- ・地域作業で町の清掃をしてくれている。必要であれば、マイクロバスを出すなどのサポートを町に投げかける。
- ・チーム学校にも関係するが、お互いに助け合う横のつながりが大事。顔を合わせて話す、コミュニケーションが大切である。